

別記様式

		担当課	教育部 教育総務課	
会 議 の 名 称		第2回 鴻巣市立小・中学校のあり方研究懇話会		
開 催 日		令和6年8月8日（木）		
開 催 時 間		18時30分開会・20時00分閉会		
開 催 場 所		川里生涯学習センター 研修室		
出席者(委員)氏名 (出席者数)		清水将之・門田晶子・小野哲史・渡邊友美・高橋登・杉原絢子 畑木武人・諏訪健・小峰元・田川豊・吉田由紀恵・小川和浩・馬場麻美 (13名)		
欠席者(委員)氏名 (欠席者数)		田沼靖・宮田忠夫 (2名)		
事務局職員職氏名		教育総務課長	松本直樹	
		教育総務課主査	新井洋平	
		教育総務課主任	堀智紀	
		学校支援課長	杉山賢次	
		学校支援課指導主事	米川晃司	(5名)
傍聴の可否 (傍聴者数)		可（傍聴者4名）		
会 議 の 内 容	(議題)			
	1 開会			
	2 あいさつ			
	3 懇談内容			
	・義務教育学校の新設について			
	4 その他			
		5 閉会		

(事務局説明内容)

・資料1「川里地域における通学区域図」では、スクールバスの運行基準にあたらな直線距離で2km以内の地域を青色の円で示している。多くの地域が円の中に入ってくるこ
とが確認できる。

しかし、他の地域の運行状況等を考えると、2kmのライン付近に乗降場所を設置し、
そこまでは徒歩で通学し、そこからはスクールバスに乗車して学校に向かうという方法と
なる。

・資料2「川里中学校周辺の公共施設の利用状況」は、基本構想・基本計画の策定にあた
って、令和5年6月から7月にかけて実施したアンケート調査の結果を抜粋したもの。

教育支援センター、旧保健センターはある程度決まった方が利用する施設のため調査対
象とはせず、誰でも利用できる施設の図書館、グランドゴルフ場、高齢者福祉センターの
利用状況を調査している。

図書館の利用状況については、委員の皆さんのお話のとおり、それなりの利用状況とな
っている。しかし、他の施設は、どの世代でも共通して低い利用状況となっている。

・懇話会という形で皆さんから意見をいただくのは今回で終わりとする。今後、基本設
計・実施設計の業務に入っていくが、設計業務を行うにあたって、ハードの部分は固めて
いかななくてはならない。ソフトについても意見をいただければと思うが、本日は、特にハ
ードに関する部分について多くの意見をいただきたいと考えている。

なお、学校運営、教育方針、学校組織等、ソフトの部分については、学校新設予定年度
の令和13年度までに協議会のようなものを立ち上げて検討を重ねていきたいと考えてい
る。

(懇話会委員の主な意見)

●校舎、教室の配置について

・採光が確保されている学校というのは良い面もあるが、吹上小学校のように固定式の天
窓が多くあるのは、清掃がしづらいなど、維持管理の面で避けたほうが良い。

・絵本を読む機会が多い低学年に向けた図書室も整備してほしい。

・メディアセンターのイメージを教えてほしい。

⇒鴻巣中央小学校の「のすっこ教室」や吹上小学校の「コスモスペース」のような大型ス
クリーン、高機能PC、3Dプリンター等が整備された教室を考えている。

・一人に一台ずつ端末が与えられたことにより、パソコンルームが必要ないというように
考えられがちだが、動画編集のような負荷のかかる作業を行う際はスペックの高いパソコ
ンが必要。鴻巣中央小学校や吹上小学校のような専用の教室を整備してもらいたい。

・図書室でも多彩な学習が展開できるよう、閲覧スペースを広く確保してほしい。

・教室の広さについて、小学校の35人ではなく、中学校の40人が利用することを想定し
て、十分な広さを確保してほしい。今の教室の広さでは足りない。

・教科書等については、昔に比べ大きく、重くなっているため、登下校の安全性の観点か

ら基本的に教室に置いて帰っている。そのような実情を加味して、十分な大きさのロッカーを整備してもらいたい。

- ・靴が下駄箱に入りきらない生徒もいる。今後、どのように教育環境が変わっていくのか分からない部分も多いため、全てにおいて余裕のある大きさで整備する必要がある。何か特別な施設を作るというよりは、既存の施設等を大きく、ロッカー等の収納スペースも確保し、全体を広くするような整備を望む。

- ・川里中学校に保護者が集まる際、全員が車で来校する。職員分の駐車場も考慮すると、少なくとも 130 台分は整備する必要があるのではないか。

- ・基本構想・基本計画の配置図において、2 階に体育館、1 階に職員室等が配置されている。相当の振動があるのではないか。また、体育館を 2 階に配置すると使い勝手が悪いという話も聞くので検討を望む。

⇒体育館等の施設の具体的なあり方については、設計業務にて検討する。

- ・川里ひまわり保育園の駐車場は現在も足りていない。ふるさと館を駐車場に整備することで、学校と保育園の駐車場を兼ねることができる。放課後児童クラブについてもふるさと館側に整備してもらえれば、送迎の際の保護者の負担も減るのではないか。

- ・教室と廊下の間には壁を設けてほしい。壁のないオープンなつくりの教室は避けるべき。

- ・窓を増やすことで、断熱効果も落ち、電気代が高くなる。また、窓が多い学校は非常に暑くなってしまうので、考慮した設計を望む。

- ・図書室については、年齢ごとにスペースを区切って、それぞれの学年のスペースを確保してほしい。

- ・今後、さらに G I G A スクールが進んでいくことから教室内にサブディスプレイを設置したほうが良いのではないか。

- ・体育館の冷房は必須。

- ・鴻巣市として、今後もプールを続けるのか。続けるのであれば、屋根の設置、又は屋内プールにするなどの暑さ対策は必要と考える。現状のプールでは、プールの授業中にも熱中症対策が必要な状況。

- ・スクールバスにより体力が減ることが考えられることから、敷地内にランニングロードを設けるのはどうか。

- ・新設する体育館が 800 m²と記載されており、川里中学校の既存体育館の 1,554 m²の半分くらい。この大きさで小学校 3 校分の児童が入るのか。

⇒川里地域における小学校の体育館は 3 校とも 480 m²程度となっており、800 m²であれば十分対応できるものと考えている。

- ・個人的には学校の芝生化は反対の立場。一方、芝生化を望む人もいる。原案は両方あるようなので良い。

- ・今の教室は本当に狭い。生徒 40 人に加え、授業参観のときに全保護者が入れるような広さの教室にしてほしい。

- ・現状のトイレは状態が非常に悪く、トイレに入りたくないという子どもが多い。また、

個室についても非常に狭い。

- ・基本構想・基本計画にあげられている新設校のイメージを子どもに見せたところ、とても喜んでいました。

- ・セキュリティについて、広い学校になるので正門に鍵をかけ、職員室から遠隔で鍵を解除するといったような整備も検討してほしい。

- ・相談室について、基本構想・基本計画では普通教室と同じ広さを2室整備すると記載があるが、広さは半分ないしは3分の1程度でも良いので、多くの相談を受けることができるよう数を増やしてもらいたい。

- ・自転車と自動車の動線が重なっている部分がある。今後、改めて検討してもらいたい。

- ・川里中学校の既存の体育館に全校生徒が集まる機会は多々あると思われる。既存の体育館側に小学生が生活するスペースを配置するのが良いのか、中学校の授業の際の動線を優先するのか、検討が必要。

●駐車場（ふるさと館）について

- ・子どもたちは、ふるさと館周辺について、老朽化しているからか、「怖い」「薄気味悪い」といったイメージをもっている。ふるさと館に対して、様々な思いがあると思うが、将来に向けて、これから使用する子どもたちのために整備し直すべきではないか。

- ・ふるさと館の施設の中で、利用が少ない施設については、廃止も検討して、駐車場の整備を行ってもらいたい。

- ・ふるさと館の必要性について聞かれる機会が多い。図書館については必要だと思うが、それ以外については、その時代に合わせ、整備する必要があるのではないか。

- ・入浴施設については、新しくできるゴミ処理場に作るのが良いのではないか。

●登下校方法について

- ・直線距離で2 km 圏内の児童生徒は自転車通学となるのか。

⇒原則、小学生は徒歩通学、中学生は自転車通学となる。しかし、現在運行しているスクールバスにおいて、2 km 圏内の児童であっても、乗降場所まで来ることを条件にスクールバスの利用を認めている。

- ・乗降場所まで来てもらえればという話ではあるが、直線距離で2 km 付近まで行くのにも、それなりの距離がある児童はいるのではないか。2 km という基準を変えることはできないのか。

⇒2 km という基準は必要と考えている。しかし、乗降場所は安全な場所に設置する必要があり、それが2 km 以内になる可能性もある。例えば、鴻巣中央学校で運行しているスクールバスにおいて、直線距離で2 km 以内に位置する笠原公民館を乗降場所として設定している。

また、現在と比較し、通学距離が長くなる児童についてもスクールバスの利用を認めている。屈巢地域においては、すべての家庭が川里中学校に行く距離より、屈巢小学校のほ

うが近い場合、全児童が対象になることも想定される。

基準を設けた上で、柔軟に対応したい。

・直線距離で2kmを超える地域を対象とするスクールバスの運行基準について、柔軟な対応を求める。

・スクールバス通学の場合、通学班を組んでいるのか。

⇒乗降場所によって異なる。例えば、同じ笠原地域でも笠原公民館は通学班を組むが、東光寺では通学班を組んでいない。保護者の考えで決めている。

・スクールバス通学にするのか、徒歩通学にするのか、選択できる2km圏内の児童はどのように通学班を組むのか。

⇒通学班を組む関係もあるので、個人で選択させるというより、地域で決めていくことになる。スクールバス運行開始年度で各地域・各家庭におけるスクールバスの意向を確認する。

・川里中学校からJA川里中央支店に行く道はとても風が強く、中学生も風にあおられ田畑に落ちる。小学生が歩いて登下校するのは難しい。積極的にスクールバスの導入を検討してほしい。

⇒これまでの学校統合においても、実際に通学路を歩いた上で、通学路や通学方法を決定している。同様に検討していく。

・広田のローソンから広田小学校まで距離は近いが、交通量も多く、非常に不安を感じている。距離に関係なく、スクールバスを利用できるようにしてもらいたい。

・他の地域やこれまでの状況を気にするのではなく、川里から新たな考え方で取り組む必要もあるのではないか。

●学校の跡地活用について

・校舎を含め、生涯学習センターのような立派な施設はいらない。大きな屋根付の休憩スペースがあって、野球やサッカー等を行うことができるような、子どもたちが集まれる場所であれば良い。

・校舎を残して、マーケットのようなものを開催するというのも望んでいない。

●その他

・アンケートなど子どもたちに意見を聞く機会は設けているのか。

⇒昨年6月～7月には地域・保護者・教職員と合わせて、子どもたちからも意見をいただきたいと考えてアンケートを行い、多くの貴重な意見をいただいた。学校を利用している子どもたちがどのようなものを求めているのか、今後も多くの意見をいただきたいと考えている。

・義務教育学校にすることで、異学年交流の機会が増えることが想定されることから、ランチルーム、多目的広場、オープンスペースを整備するのが良いと思う。異学年交流により、高学年のリーダーシップ能力等を自然に育むことができる。

- ・義務教育学校を整備することは、これまで、長い間、川里地域で行ってきた小中一貫教育の集大成となる。フレキシブルにカリキュラムを構築することができるなど、良い面が多くあると考えている。市立の学校として、他の学校と同様に先生の異動はある。どのような教員が来ても対応ができるよう、学校の位置づけ、あり方などをしっかりと定めてもらいたい。
- ・英語に関心のある保護者が非常に多いことから、英語教育を売りにするというのも良いのではないか。
- ・ICT化を進めて、保護者、教職員の負担を減らしてほしい。
- ・ICT設備等、私立学校のように整備を進めるだけでなく、川里地域の良さである人と人とのつながりを活かせる学校にしてもらいたい。

●共和小学校 PTA からの質問

①開校時期について

適正規模の学校が必要と令和 10 年度の開校を目指していたが、開校が3年遅れたことにより、市の考え方としては「適正規模ではない学校」に通学することになる子どもたちが発生する。その3年間のフォローはどうするのか。市としての具体的な考え方を教えてほしい。

⇒川里地域においては、児童数の減少という理由で適正規模・適正配置に取り組んでいる訳ではない。小中一貫教育を推進することで、さらなる教育効果の向上を図るために適正配置等に取り組んでいる。

②建設工事

工事中は、工事の音で授業に集中できなくなる子や万が一の事故のリスクが高くなる。その対処方法はどのように考えているのか。

⇒吹上小学校や吹上中学校の新設工事にあたって、児童生徒がいる中での工事スケジュールを組んでいた。過去の取組におけるノウハウをもとに、極力、生徒が負担を感じることがないように工事方法を検討していく。

③スクールバスについて

開校時はスクールバスの料金を無料としているが、年間費用が1台あたり1,000万円かかる中型バスを最大8台運行することにより、毎年、最低でも8,000万円の経費が必要となる。物価高騰も考慮するとさらなる費用負担が必要になるが、鴻巣市として永久的に負担し、無料運転を続けることは可能なのか。またはバス料金を有料にせざるを得ない状況はどのような場合なのか教えてほしい。

⇒スクールバスの経費負担はあるが、学校統合により、学校の維持管理費用は大きく減ることが想定される。

また、スクールバスについては、他の地域からの要望も多く、通学路の危険性や熱中症への対応に関する意見も多々いただいていることから、運行地域は拡大していくものと考えられる。

	現時点では、スクールバスの費用負担ということは、市教育委員会として考えていないが、今後、一生というのはこの場で一担当としてお話しすることはできない。
配布資料	1. 第2回 鴻巣市立小・中学校のあり方研究懇話会次第 2. 川里地域における通学区域図 3. 川里中学校周辺における公共施設の利用状況